とびラー募集チラシ

とびラー募集チラシは、東京都美術館と東京芸術大学と市民が連携して行っている「とびらプロジェクト」で活動するとびラーの募集に関する情報と、募集説明会である「とびらプロジェクトフォーラム」に関する情報を掲載しています。このテキストは「音声読み上げ用」に作成しているため、チラシPDFとは、文章や表現などが異なっている部分があります。

# 表紙について

チラシの表紙には、イラストで「とびラー」が活動しているイメージが描かれています。壁に展示された作品をみながら気がついたことを話している2人、テーブルに集まって話し合いをしている3人、そのテーブルに資料の本を持って行こうとしている人、ホワイトボードを中央に移動させようとしている2人、それぞれが和やかで楽しそうに過ごしている様子が鮮やかなクリーム色を背景とした空間の中で描かれています。

ページの上には、「アート・コミュニケータをとびラーとよびます。とびラー募集！」と書かれています。ホワイトボードには、締切2022年2月14日(月曜日)消印有効、定員40名と書かれています。

# とびらプロジェクトについて

チラシの2ページ目では、「とびらプロジェクト」について説明しています。

「とびらプロジェクト」とは東京都美術館と東京芸術大学と市民が連携し、アートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトです。

美術館を拠点に、そこにある文化資源を活かしながら、人と作品、人と人、人と場所をつなぎ、そこから生まれる新しい価値を実践を通して社会に届けています。今年も活動の主体となるアート・コミュニケータ、とびラーを40名募集します。

東京都美術館と東京芸術大学と共に、あなたもアート・コミュニケータ、とびラーとして活動に参加してみませんか。

とびラーの活動は、学芸員や大学の教員、そして第一線で活躍中の専門家を中心としたプロジェクトチームがしっかりとサポートしていきます。

「とびらプロジェクト」はアートを介して人々の中に新しい価値を育む活動を行っています。

例えばこんな活動があります。

人々のつながりを大切にした新しい対話の場、コミュニティづくり。

本物の作品を通してコミュニケーションを育む鑑賞プログラム。

障害のあるかたなど美術館に来館しづらい方々を対象とした特別鑑賞会の開催。

建築家・まえかわ　くにお（前川　國男）が設計した東京都美術館の建築を活用したプログラム。

美術館を活用して、自ら学び考えることを育む鑑賞授業の実施、学校との連携。

上野公園に広がる9つの文化施設をつなぐ活動の推進、「Museum Start あいうえの」との連動。

# とびラー募集について

チラシの2ページ目と3ページ目では、とびラー募集に関する情報を掲載しています。

## 募集概要

応募条件

1 2022年4月1日時点で18歳以上のかたで、日本語で日常会話ができるかた。高校生を除きます。

2　美術または美術館に関心があり、積極的に学び、活動意欲のあるかた。

3　東京都美術館のミッション、使命と東京藝術大学からのメッセージを理解し、共感して活動できるかた。

4　2022年4月～6月の基礎講座全6回に原則として全て参加可能なかた。

5　2022年7月以降、月2回以上の活動に参加可能なかた。

6　パソコンなどでのEメール送受信が可能なかた。

東京都美術館のミッション

東京都美術館は、展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害を持つ人が何のためらいもなく来館できる、すべての人に開かれた「アートヘの入口」となることを目指します。

新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」と出会う場とします。

そして、人びとの「心のゆたかさの拠り所」となることを目指して活動していきます。

東京芸術大学からのメッセージ

アートを介したコミュニティづくりは、作品を創造する人、そしてそれを享受する人を含め、人びとのクリエイティブな力が活きる社会をつくることにつながります。

東京芸術大学は、芸術の基本である「もの」としての作品に加えて、「こと」としての芸術に取組み、市民が芸術に親しむ機会の創出に努め、芸術をもって社会に貫献します。

活動条件

1　アート・コミュニケータの活動は無償です。交通費、謝礼等の支給はありません。

ただし、ワークショップや講座等、学びのコミュニティに無料で参加できます。

2　アート・コミュニケータの登録期間は1年間とします。

次年度以降は本人と「とびらプロジェクト」双方の合意のうえ、登録更新し、最長3年間とします。

3　「とびらプロジェクト」のウェブサイト等を読んだり、Eメールでの連絡ができること。

活動場所　東京都美術館、東京芸術大学など。オンラインでの活動もあります。

講座内容

基礎講座

日程：2022年4月9日、4月23日、5月7日、5月21日、6月4日、6月18日、すべて土曜日、10時～15時予定

場所：東京都美術館 交流棟2階のアートスタディルームを予定しています。

内容：

美術館での活動についてや対話の場づくり、作品を通したコミュニケーションとはどのようなものかを学びます。新しいコミュニティづくりにつながる基礎的な物事の考え方をディスカッションやワークショップなどの参加形式で深めていきます。

実践講座

2022年7月から実践講座が始まります。詳細は2次選考通過者に対して別途ご連絡します。

募集人数

40名

## 応募方法

応募方法

次の書類を郵送してください。

1　応募用紙

「アート・コミュニケータ応募用紙」に必要事項を記入してください。

とびらプロジェクトウェブサイトよりダウンロードしてください。

リンク　[アート・コミュニケータ応募用紙（pdf）](https://tobira-project.info/wp-content/themes/tobira2015/img/bosyu/pdf/tobira_oubo2022.pdf)

2　課題

A4用紙1枚にまとめてください。まとめかたは自由です。

3 返信用封筒1通

長形3号の定型封筒に84円切手を貼り、宛先欄に応募者の郵便番号、住所、氏名を明記してください。

郵送の際には、封筒の表面に、「アート・コミュニケータ応募書類在中」、と赤字で書いてください。

募集日程

応募受付期間終了後、1次選考の書類審査、2次選考の面接審査を予定しています。

応募受付期間

2022年1月10日(月曜日)～2月14日(月曜日)消印有効

１次選考、書類審査

選考結果は2022年2月24日(木曜日)発送で応募者全員にお知らせします。

２次選考、面接審査

2022年3月4日(金曜日)～6日(日曜日)のいずれか1日。

選考結果は2022年3月16日(水曜日)発送で2次選考対象者全員にお知らせします。

課題

1次選考の課題は次のとおりです。

アート・コミュニケータに応募する動機と、その背景になっているあなたにとって重要な体験について述べてください。

美術館の体験でも、美術館の体験でなくてもかまいません。

A4用紙1枚にまとめ、必ず氏名を記入してください。

まとめ方の様式は自由ですが、A4規格ではない用紙を使ったものや、A4用紙の両面を使ったものは選考対象となりませんので、ご注意ください。

なお、2次選考の面接は、アート・コミュニケータの活動を、「とびらプロジェクト」や「ミュージアム スタート あいうえの」のウェブサイト、参考図書などで確認いただいていることを前提に行います。

リンク　[「とびらプロジェクト」ウェブサイト](https://tobira-project.info/)

リンク　[「ミュージアム スタート あいうえの」ウェブサイト](https://museum-start.jp/)

参考図書

電子版「美術館と大学と市民がつくる ソーシャルデザインプロジェクト」、とびらプロジェクト編、小学館、税込価格1,584円。

リンク　[電子版「美術館と大学と市民がつくる ソーシャルデザインプロジェクト」](https://www.shogakukan.co.jp/books/09d09248)電子版「美術館と大学と市民がつくる ソーシャルデザインプロジェクト」

書類郵送先

東京都美術館アート・コミュニケータ募集担当宛

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36

一度提出していただいた応募用紙等の書類は返却いたしません。

応募者の個人情報は 、アート・コミュニケータの選考に関すること以外には一切使用しません。

# 「とびらプロジェクトフォーラム」のご案内

チラシの裏表紙では、2022年1月22日（土曜日）開催予定の「とびらプロジェクトフォーラム」に関するご案内をしています。

## 第一部

2022年1月22日(土曜日)13時～15時30分、受付開始12時30分

会場：東京都美術館 講堂、または、オンライン定員：会場参加100名、オンライン参加400名定員になり次第締め切ります。手話通訳あり、UDトークによる文字表示支援あり。

テーマ：コミュニティから芽生える回復力　予測不可能な世界を生きる、アート・コミュニケータの10年とこれから。

2012年にスタートした「とびらプロジェクト」は、2021年4月に10期とびラーとともに10年目を迎えました。10年前の2011年は東日本大震災、そして現在も続くコロナ禍と、この10年は予測不可能な状況が日常になりました。

とびらプロジェクトでは、美術館を拠点に、多様な人々が作品や文化財を介して、フラットに関わり合う「ゼロからの対話」でつむぐコミュニティを目指して来ました。

こうした「創造的な対話の場」は予測不可能な世界を生きる私たちに、日常を健やかに営み継続する「回復力、レジリエンス」を与えるものではないかと考えています。

今回のフォーラムでは、この10年間を振り返りつつ、「コミュニティから芽生える回復力」について、「とびらプロジェクト」に関わってきた人々の言葉から考えていきます。キーワードは、 VUCA（予測不可能な時代）、アート 、対話 、回復力 、コミュニティ、人間らしさ 、ウェルビーイング

みなさまのご参加をお待ちしています。

1 とびらプロジェクトの紹介

発表者、くまがい　かずみ（熊谷　香寿美）　東京都美術館 学芸員 アート・コミュニケーション係

こむた　ゆうすけ（小牟田　悠介）　東京芸術大学 美術学部 特任助教、とびらプロジェクト サブ・マネジャー

2 トークセッション 予測不可能な世界を生きる、アート・コミュニケータの10年とこれから。 登壇者、にしむら　よしあき（西村　佳哲）、いなにわ　さわこ（稲庭　彩和子）、アート・コミュニケータ3 パネルディスカッション　コミュニティから芽生える回復力

登壇者、ひびの　かつひこ（日比野　克彦）　東京芸術大学美術学部長、岐阜県美術館館長、とびらプロジェクト代表教員

にしむら　よしあき（西村　佳哲）　プランニング・ディレクター、リビングワールド代表、とびらプロジェクトアドバイザー

もり　つかさ（森　司）　アーツカウンシル東京 事業推進室 事業調整課長、とびらプロジェクトアドバイザー

いなにわ　さわこ（稲庭　彩和子）　東京都美術館 学芸員 アート・コミュニケーション係長、とびらプロジェクトマネジャー

いとう　たつや（伊藤　達矢）　東京芸術大学社会連携センター 特任准教授、とびらプロジェクトマネジャー

## 第二部

2022年1月22日(土曜日)15時45分～17時

会場：東京都美術館 講堂、アートスタディルーム、スタジオ定員：会場参加のみ100名。第二部に参加するためには、第一部「会場参加」の申込が必要です。オンライン配信はありません。

とびラボオープンセッション

「とびらプロジェクト」の活動拠点を公開し、とびラボなどのとびラーの普段の活動について紹介します。とびラーがみなさまからのご質問にもお答えします。

## 参加申込方法

参加費無料、事前申込制、先着順

「とびらプロジェクトフォーラム」に参加する場合は、「とびらプロジェクト」ウェブサイト内の申込フォームからお申し込みください。

申込フォームは会場参加とオンライン参加の2種類があります。

どちらかを選んでください。

第二部に参加希望の方は、必ず会場参加を選んでください。

リンク　[会場参加の申込フォーム](https://tobikan.jp/form/287)

リンク　[オンライン参加の申込フォーム](https://tobikan.jp/form/288)